

### 3 消化器内科

#### 基本研修（2ヵ月）

##### （1）一般目標

プライマリ・ケアで学んだ諸項目に加え、消化器疾患について正確な検査、診断、治療ができるようになるため、必要な知識や技術を習得する。

##### （2）行動目標と実践（OJT）

###### 1）診断力の習得

- ①消化器疾患の特徴的症候を理解し、問診で正確に聴取できる。特に腹部所見を正確にとることができる。
- ②消化器疾患には緊急処置を要する疾患も多く、患者の重症度を適切に判断できる。
- ③患者の栄養状態の評価ができる。
- ④各種検査の立案ができる。
- ⑤内視鏡を含む消化器の治療手技の理論と適応、さらに、起こりうる偶発症を理解し説明できる。
- ⑥単純腹部レントゲン、腹部CTの読影が指導医または上級医とともにできる。
- ⑦腹部超音波検査を行い、救急の鑑別診断ができる。
- ⑧チーム医療における自分の役割と責任を理解し、スタッフとの良好な関係が構築できること。

###### 2）治療の実践

- ①一次救命処置（BLS）を指導医または上級医の指導のもとで行う。
- ②指導医または上級医の指導のもと、内視鏡的治療やイレウス管等、消化器の治療手技の適切な介助を行う。
- ③輸液・輸血等のオーダーと安全な投与を行う。
- ④各種検査（腹部超音波検査や上下部内視鏡検査、腹部血管造影検査や肝動脈側断術、肝生研や経皮的ラジオ波焼灼術、経皮的胆道ドレナージや肝膿瘍穿刺、ドレナージ等）に参加する。
- ⑤消化器関連の救急患者の治療を指導医または上級医とともにでき、患者の重症度評価と初期救急対応を行う。
- ⑥入院患者を受け持ち、検査の立案、処方の実際を理解する。
- ⑦病棟総回診に帯同し、受け持ち患者以外の診療の概要を理解する能力を向上させる。
- ⑧入院患者の栄養管理を適切に行う。
- ⑨薬物療法の理論を理解し、適切に処方を行う。

#### 選択研修（1ヵ月以上）

##### （1）一般目標

消化器疾患について正確な診断と治療指針を自ら行い、検査及び治療手技向上のため、必要な知識や技術を習得する。

##### （2）行動目標と実践（OJT）

###### 1）診断力の向上

- ①消化器疾患の問診・腹部所見を正確にとることができ、指導が行える。
- ②消化器肝疾患関連の救急患者の初期治療が行える。
- ③適切な患者栄養管理ができる。
- ④内視鏡を含む、消化器の治療手技の理論と適応、さらに、起こりうる偶発症を理

解し、患者さんに説明できる。

- ⑤単純腹部レントゲン、腹部 CT・MRI の読影が行える。
- ⑥腹部超音波診断を指導医等または上級医の指導のもと行える。
- ⑦上部内視鏡による診断を指導医または上級医の指導のもと行える。
- ⑧大腸内視鏡検査を指導医等または上級医の指導のもと行える。
- ⑨比較的危険度の低い内視鏡治療を指導医等または上級医の指導のもと行える。
- ⑩腹部血管造影検査が主体となり施行でき、肝動脈塞栓術を指導医等または上級医の指導のもと行える。
- ⑪肝生研、肝腫瘍生研、経皮的ラジオ波焼灼術を指導医等または上級医の指導のもと行える。
- ⑫チーム医療における自分の役割と責任を理解し、スタッフとの良好な関係が構築できること。

## 2) 治療の実践

- ①一次救命処置 (BLS) を行う。
  - ②指導医または上級医の指導のもと、内視鏡的治療やイレウス管等、消化器の治療手技の適切な介助を行う。
  - ③輸液・輸血等のオーダーと安全な投与を行う。
  - ④腹部超音波検査を指導医または上級医の指導のもと行い、診断する。
  - ⑤上部内視鏡検査を指導医または上級医の指導のもと行い、診断する。
  - ⑥大腸内視鏡検査を指導医または上級医の指導のもと行う。
- 
- ⑦消化器関連の救急患者の診療を行い、患者の重症度評価と初期救急対応を行う。
  - ⑧入院患者を受け持ち、検査の立案、処方を行う。入院患者の検査等の説明を主治医の立会いのもとで行う。
  - ⑨入院患者の栄養管理を適切に行う。
  - ⑩薬物療法の理論を理解し、適切に処方を行う。

### 【標準的週間スケジュール】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	G F	エコー	外科との合同カンファレンス ／G F	G F	G F
午後	CF／ERCP ポリペク	肝生検／ 血管造影 部長回診／ 病棟研修	CF／ERCP ポリペク	CF／ERCP ポリペク	C F

G F:胃内視鏡 C F:大腸ファイバースコープ

E R C P:内視鏡的逆行性胆道膵管造影

毎週水曜日午前8時からの外科との合同カンファレンスに参加